

千葉市内の鉄道と駅

◆千葉市内を走る鉄道

<JR東日本－総武本線・内房線・外房線・京葉線>

明治27年（1894）、総武鉄道株式会社により市川～佐倉間に鉄道が開通し、千葉駅も開業しました。その後次々と県内の鉄道が千葉駅を中心として開通していきます。鉄道開通以前も千葉町は交通の中心、特に水上交通の中継地として栄えていました。鉄道開通により港町としての色彩が薄れはしたものの、千葉町は、県内各地と短時間で結びつけられたことで県内の政治・経済・文化の地方中心都市として、さらに発展することになったのです。明治29年には房総鉄道株式会社により蘇我～大網間が開通、総武鉄道と連絡します。その後両鉄道株式会社は国有化され、総武線・房総線と称されるようになりました。この房総線は房総東線（千葉～大網～安房鴨川間）、房総西線（蘇我～木更津～安房鴨川間）と改称され、さらに複線化や電化などを経て外房線・内房線という呼称になります。昭和61年（1986）には京葉線が開通、平成2年（1990）に東京駅に乗り入れ、現在東京と房総を結ぶ新しい路線として利用されています。

年	動き
明治27年	総武鉄道(株)開通（市川～佐倉間） 千葉駅開業
明治29年	房総鉄道(株)（蘇我～大網間）開業 "（千葉～蘇我間）開通
明治40年	国有化 （総武鉄道(株)→総武線、房総鉄道(株)→房総線）
明治45年	木更津線（蘇我～姉ヶ崎間）開通
昭和2年	千葉駅舎改築
昭和8年	房総線改称（→房総東線・房総西線）
昭和38年	千葉駅舎移転営業開始
昭和47年	房総東線→外房線、房総西線→内房線に改称
昭和61年	京葉線（西船橋～千葉みなと間）開通
昭和62年	国鉄分割民営化、JR東日本(株)となる
昭和63年	京葉線（蘇我～新木場間）開通
平成2年	京葉線東京駅乗り入れ

※参考：『写真集 千葉市のあゆみ』（千葉市広報課・2001年3月）

<京成電鉄>

大正10年（1921）、京成電気軌道が押上～船橋間の線路を京成千葉まで延長開通しました。当時、京成稲毛・浜海岸（現みどり台）・千葉海岸（現西登戸）などの駅が海水浴場や保養地の最寄り駅として利用されていました。浜海岸は同17年に帝大工学部前・同23年に工学部・同26年に黒砂と時代の移り変わりと共に駅名を変更し、47年にみどり台となり現在に至っています。平成4年千葉急行電鉄によって千葉中央～大森台間が開通、同7年ちはら台まで線路を延長しました。さらに三年後京成電鉄が千葉急行線の営業を引き継ぎ、千原線として千葉中央～ちはら台間を結んでいます。

<千葉都市モノレール>

昭和63年（1988）、市内各地域を結んだ新しい交通体系を目指して、千城台～スポーツセンター間に千葉都市モノレールが開業しました。平成3年にスポーツセンター～仮千葉（千葉）間、同7年に千葉～千葉みなと間、同11年に千葉～県庁前が開通し、市域の内陸部と湾岸部を結んでいます。

◆千葉駅

明治27年（1894）に開業した千葉駅は現在の市民会館付近にありました。当時千葉駅から市場町の県庁に至る地域は千葉の商圈の中心として栄えていました。日露戦争後は鉄道聯隊ができた関係で、千葉駅の裏手に引き込み線や軍用のホームが設けられましたが、この駅は空襲で焼失してしまいます。戦後元の位置に再建されましたが、この国鉄千葉駅と国鉄本千葉駅（現京成千葉中央駅付近）、京成千葉駅（現中央公園付近）は復興都市計画に従い移転することとなりました。特に千葉駅は県内の鉄道網の中心となっていたものの、もともとターミナルとして設計されたものではなかったため、列車本数・利用者数の増加に対応するために移転が必要でした。千葉駅が現在の位置へ移転し、営業を開始したのは昭和38年（1963）のことです。